AKKESHI

釧路市医師会
町立厚岸病院
佐々木暢彦

国道44号線を釧路から根室に向かって走り、厚岸町の門静(もんしず)地区に入ると右手に厚岸湾が見えてくる。そちらに目をやると湾の入り口方向には大黒島が横たわり、その右手には尻羽岬の長い陰影を見ることができる。わき見運転を続けるのは良くないので国道の前方、正面の進行方向を見ると水面越しに赤い厚岸大橋が確認できるだろう。この橋は町のシンボルでもあるのだ。その橋の左側に、実際には手前の高台になるのだが、新しく移転した消防本部が見える。そしてそのさらに手前に少し小さな建物があり、近づくにつれて白い壁に書かれた「AKKESHI」という黒い文字が読めてくる。

ウイスキー好きの方には既に知られていることだが、厚岸町には道内で２番目となる蒸留所があり、３年前から蒸留を始めている。その蒸留所の３つ目の熟成庫がこのAKKESHIと書かれた建物である。ウイスキー造りに関しては、私もこの数年の間に初めて教わったことが多いのだが、熟成庫がどのような場所にあるかによって、ウイスキーはそれぞれ異なる風味を持つのだそうだ。同じ原酒であっても海岸に近く海霧に囲まれることが多い場所で熟成されたものと、内陸の牧場地帯や湿原の中で育った場合とでは確かに違う性格になりそうである。そんな訳で厚岸町の中でも、複数の地区で熟成を試みているとのこと。

この厚岸ウイスキーに留まらず、全国的な有名ブランドとなったカキの産地として、さらには道立厚岸自然公園の国定公園昇格が予定されているなど、厚岸町は注目される地域となっている（と、思っています)。しかし、同時にJR花咲線（釧路－根室間の根室本線）の赤字問題や、人口減少問題など、地方であればどこでも苦しんでいる難題にも直面している。そのような「あっけし」という町は道内では古い歴史のある町なのだが、以前に後輩が私の住む町のことを指して、しきりに「あっけ」「あっけ」と言っていた。「あっけ市」と思っていたらしい。北海道生まれの人でも道内全域のことを知っているわけではない。ここは「厚岸町（あっけしちょう)」なのである。しかし、先に挙げたいくつもの話題を含め、困難と可能性に満ちた魅力のある土地でもあるのだ。あのチコちゃんも昨年春の放送で、好きな北海道名産品として「厚岸のカキかなぁ」と言っているのである。AKKESHIを覚えていただけただろうか。

地域医療構想について

札幌市医師会
札幌しらかば台篠路病院
荒谷　英二

医療は2025年問題で国や道、または市が主導で各関係団体等が議論の真っ最中だ。地域医療構想は大きな枠組みとしては理解できるし、やることに対しては賛成だ。しかし、一生懸命議論を行っているが、結論が見えてこない。私の理解不足だとしたら申し訳ない。特に、具体的には地域とはどこで分断をすることを想定して地域というのか？　例えば札幌市の中でも地域を区切るのか、それとも道央圏と区切られるのか見えていない。地域医療構想説明会は基本的には市ごとで行われているので、市という区切りではないかと大方予測がつくが…。では、小樽の銭函と手稲はそれぞれの地域で病床機能分化を考えればよいのであって、お隣同士は考えなくても良いのだろうか？　最終的には地域医療専門委員会が調整するのだろうか？　率直な感想としては、大風呂敷を広げ過ぎた感があると感じている。

まず初めに、国公立や自治体病院の中で必要な病床数や適正な病床配置を決め、不足分もしくは調整が必要な病床については民間病院に協力を求めるくらいのスタンスで良かったのではないだろうか？
原則、行政の介入ではなく医療機関同士が話し合いで互いの病床機能を決めるとしているが、特に民間の病院は、病院経営の成立しない病床機能の転換はしない。また、病床機能が変わった場合のスタッフは、その病床機能についていけるか？　病床機能の変化は、働くスタッフにとっても農業から漁業に転職するくらい大きい変化の場合がある。付け加えれば、万が一、病床機能を転換せざるを得ない状況の中で、医師や医療従事者の働き方改革は進むのかという疑問も出てくる。いずれにせよ地域医療構想を進めるにあたっては、私の悪い癖で、考えれば考えるほど施策による弊害が思いつき、不安になることが多い。

しかし、地域医療を守ることと、職員の雇用を守ることは同じくらい重要だ。今までにない変革の時期だからこそ、多くの人がアイデアを出して、総合的に良い方向に向かっていき、次の世代への財産としての医療を残していかなければならない。ただ、もう既に2040年に向けた医療体制の議論がされようとしている…（笑）